

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191500214		
法人名	医療法人 森生会		
事業所名	グループホーム 温もりの家 楓ユニット		
所在地	北海道茅部郡森町字上台330-12		
自己評価作成日	平成29年11月15日	評価結果市町村受理日	平成29年12月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2017.022_kan=true&JigyosyoCd=0191500214-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年12月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1、当事業所は運営母体が医療機関(森の里病院)で隣接しているため、日頃から入居者様の健康状態について相談できる環境にあります。また、緊急時には医療機関と連携が図れる体制が整っている。その他、毎月往診及び薬の定期処方があり入居者様の健康管理を行なっている。H29年10月より訪問看護ステーションウイズもりと契約し、毎週金曜日の定期訪問・夜間17:30～9:30までの間緊急対応、土・日・祝の対応と医療との連携・協力が更に強くなった。
2、当事業所には常勤の栄養士を配置しており、食事の献立や栄養のバランスを考えた食事を提供しています。
3、当施設周辺には緑が多く、春には桜を観に出掛けたり、秋には栗拾いに出かけたり、紅葉を観に出掛けたりと四季の変化を楽しんで頂けると思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

森町は内浦湾に面した駒ヶ岳山麓すそ野に位置し、人口1万6千人程の町である。「グループホーム 温もりの家」は、市街地より3km程離れている鳥崎八景の近く、自然豊かな環境の中に立地している。近隣には母体法人の医療機関と系列のグループホーム「もりの家」があり、夏祭りや防火訓練などは合同で実施しており、地域の方々が多く参加している。7月に着任した管理者は、高齢者福祉に於いては豊富な知識を持っており、職員が向上心をもって働けるよう環境整備に努め、就労の意欲につなげている。事業所の年間行事計画には、レクリエーションや外出支援が多彩に盛り込まれ、気分転換やストレス発散、五感刺激の機会として活用している。職員は一丸となって口腔ケアに取り組み、利用者は四季折々の変化に触れながら、職員の優しい気持ちと笑顔に接し、温もりのある家庭的な雰囲気の中で生活している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(楓ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し都度確認し共有している。ケア会議等を利用して話し合いを行ったり、また理念を基本に個人目標を立て、日々のケアにおいて実践出来る様に取り組んでいる。	感謝と優しい気持ちと職員の笑顔を主体とした理念を事業所内に提示すると共に会議の中で意見の統一を図っている。職員は個々に定めた目標に沿ってサービスの提供に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会への地域行事の参加やボランティアの受け入れ、法人内での祭りなど(お花見や夏祭り等)に参加し地域との交流を図っている。	月1回の町内会定例会に出席して交流を図り、町内会の活動に参加や協力をしている。事業所の夏祭りには地域の方々が多数訪れ盛大に催されており、森高校生はじめ各種ボランティアの受け入れも積極的である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の会合などに出向き、認知症についての理解をお話しさせて頂いたり、ご家族様には面会時の会話内や入居対応時、電話等にてアドバイスをを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、活動状況や入居者様の現状等について報告し、それについて推進委員から意見やアドバイスをもらい、サービス向上に活かせるよう努めているが、ご家族様の参加率が低い事が現状。	行政、社協、地域、家族の参加で定期的開催している会議は運営状況、活動報告、地域との交流と防災訓練、外部評価など多岐にわたり話し合い活発な意見交換が行われ、サービスの向上に活かしている。出席できない家族には議事録を郵送している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いたり、包括ケア会議に出席し、情報交換や、実情についての取り組み等を伝えている。	町担当者とはメールを利用して連絡を取り合い、毎月、医療券の受け取りに訪ねている。ケア会議の出席やケースワーカーが担当利用者の面会を訪れて情報を交換するなど、連携はとれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議等で日々のケアの中で肉体的な拘束は勿論、精神面で拘束してしまっていないか等について話し合い、より良いケア方法を検討している。	身体拘束の外部研修会に参加した職員が、伝達講習を実施して職員全員の共有を図っている。日常的に利用者の安全を確保して、自由な暮らしの支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修会に参加し報告会等で職員全体で理解を深められるよう取り組んでいる。各々が自覚の無い虐待になってしまわない様に努めている。		

グループホーム 温もりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(楓ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し理解は深めているものの、支援に繋がられる様な関係者との話し合いや検討までには至っておらず、機会が無い状態である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に口頭・書面で重要事項説明を行ない、理解、納得していただいた上で契約を行っている。また、契約の際にご家族様となるべくコミュニケーションを取り、信頼関係の構築を心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。来所時に意見や要望を聴かせて頂いたり、アンケートの実施や運営会議の議事録、「温もりの家便り」を送付し意見や要望を反映出来るよう努めている。	毎月、発行している「温もりの家便り」で生活状況の報告と事業所からの協力要請と依頼なども記事にしている。年1回のアンケートの実施や、訪問時の声かけで意見を伺う機会をつくり運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全体会議内で職員の意見や提案する機会を作り反映できるよう努めている。また年に一度個別面談を実施しており、職員からも意見を言いやすいような環境を心掛けている。	年1回、個別面談を実施して職員と忌憚のない意見交換が行われ、表出された課題は全体会議で検討し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を取り入れた業務改善や、研修の機会を確保し各々が積極的に参加できるよう、また上司と掛け合い給与水準について相談をしたり、モチベーションを維持できるような体制を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社側の働き掛けで研修費用・宿泊代の助成等積極的に、外部の研修会に参加できる環境を作ることが出来ている。研修会後は報告会や勉強会を実施し知識や技術の向上に繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各事業所との研修会・交流会などに参加し情報交換や実状について意見交換を行なう等、サービスの質向上に取り組んでいる。		

グループホーム 温もりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(楓ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には面談を行ない、ご本人・ご家族様の思いや不安等を把握し、ご本人が安心して生活を送れるよう支援している。入居後においても思いや考えを理解しながら支援にあたる様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	生活に対する希望や健康上の不安、これまでのご家族様同士の関係性等を雑談の中でお聞きしており、ご本人様ご家族様も含めて、良好な関係作りにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関係機関やご本人・ご家族様から情報収集を行ない、その上で必要なサービスや支援を見極め、日々のケアに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一日の内2回、1時間程ではあるが、入居者様とのお茶会のようなものを行い、談笑を楽しむ時間を作っている。また、食器洗い・食器拭き・洗濯物畳み等・・・家事作業を通じ、暮らしの中で必要不可欠な仕事のお手伝いをお願いしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通常は面会時や電話で近況報告等行なっているが、ご家族様の中には、忙しい方や遠方の方もいる為、温もりの家便り・手紙・電話で普段の様子をお伝えしている。また、行事参加案内の送付や日用品等の必要になった物のお願い等、ご本人様とご家族様の関係作りを大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物に出掛けたり、誕生日・行事を利用して本人の「行きたい場所」へ食事に出掛けたり、またその他には町内のお祭りへ参加したり、馴染みの理容院・歯医者など関係が途切れてしまわないよう支援している。	定期的に訪れる友人や送迎してくれる馴染みの美容室、社協主催のふれあいサロンに参加して知人との再会などがあり、これまで培ってきた人間関係を大切に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事・おやつ作り・レクリエーション等を通して交流の機会を提供している。また入居者様の状態に応じ席替えを実施したり、スタッフが介入しコミュニケーションのお手伝いをする等、他入居者様間において関わりを継続できるよう努めている。		

グループホーム 温もりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(楓ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了してからも関係性を大切にし、ご家族様に来所して頂いたり、必要に応じて訪問し相談に応じている。また町内の病院や買い物時にてご家族様と顔を合わせる事もあり、挨拶を欠かさず行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や思いについて把握出来るよう、コミュニケーションを大切にしている。思いを表出するのが難しい方には、普段の様子等から本人様の立場になって想像する事を行ない、意向の把握については御家族様へ昔の本人様の話し等を聞いて把握する様努めている。また職員間でも気付いた事を話し合い検討している。	本人の生活歴を基に得意なこと、出来る事を把握し思いを汲みとったり、利用者の表情や合図を見逃さず意思表示が確実な事はプランに反映させるなど、本人本位に添って取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	備え付けにて家具は一通りご用意させて頂いているものの、ご本人様の馴染みの物を自室に置いたり仏壇や亡くなった旦那様の写真を置き、馴染みのある生活環境を目指している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ユニット会議等を利用し居室担当者が主で話し合いの場を作っている。その時に左記の事も討議しており、職員各々が入居者様の把握、状態維持改善に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に行っている会議や担当者会議内で話合われている。3ヶ月毎にモニタリング、6ヶ月毎にアセスメントを実施し、用紙を作り職員へ記入して貰っている。その中での良いアイデアと、本人の状態を考慮し反映させながらケアプランを作成している。	本人や家族の要望を反映し、日常のケア記録を基に担当医の所見を参考に栄養士、訪問看護師、職員が参加しての担当者会議で課題の有無を検討し、現状に合わせた介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「FUTURE」と言う電子カルテを用いて個別にその日行ったケアや、様子の変化等を記録し送り・情報共有を行っている。必要に応じてプランの見直しやケア方法の工夫について、ケア会議で検討を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに合わせてボランティアを活用したり、外出先へのロケハンや連絡を取ったりと柔軟かつ臨機応変に対応できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や買い物、外食と一緒にいたり、消防署との連携にて避難訓練を実施したり、安全に屋外を散歩できるよう警察にも協力を依頼している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接している協力病院について説明した上で、かかりつけ医になって頂いている他、本人が以前からかかりつけ医として利用していた病院をそのまま利用したり、ご家族様からの希望にて病院を変える等の支援を行っている。	運営法人が隣接の医療機関であるが、家族の要望により従来のかかりつけ医の診察も可能であり、職員が代行して受診をしている。週に1度、訪問看護師による健康管理が実施され、緊急時や夜間体制も完備されている。	

グループホーム 温もりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(楓ユニット)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員同士の情報共有を密に、状態変化を早期に見出し、看護師に相談出来るよう努めている。また今年の10月より訪問看護ステーションウイズもりと契約を交わし、夜間・土・日・祝の急変時の対応も可能となり、より密に医療連携が可能となった。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は関係機関と情報提供書を相互に提出する事や、退院前に面談を行う為の連絡調整しており、協力体制の確保に努めている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期に向けた事業所の方針を説明し、ご家族様から意見や考えを聞いている。重度化については状態の変化に合わせご家族様の意向を確認しながら進めている。当施設ではまだ看取り体制は整備されておらず、現状では協力医療機関や町内の病院へ転院する等の対応を講じている。	入居時に看取りに関する事業所の方針を家族に説明し同意を得ている。主治医の判断で医療行為が必要になった時には家族の意向を再確認し、チーム全体で取り組む体制を整えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修の機会・発生した場合のマニュアル・協力病院等との連絡網はあるが、実際の場面で全員が活かせるかは未だ不安がある。今後も定期的な学習の機会・訓練・演習が必要と考えている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署立会いの元、避難訓練を実施している。その際は町内会の方々へ参加呼び掛けはしているが、中々都合が付かず参加は出来ていない。	年2回、消防署立会いで隣接の母体法人の病院と系列のグループホームもりの家と合同の訓練を実施している。緊急時連絡網には町内会長や地域の方々の協力体制を確立している。土砂災害を含めた自然災害計画書を作成し、備蓄も用意している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ各々が左記の事を自問自答しながら日々のケアに当たっており、日々試行錯誤を行いながら工夫している。ケア会議等においても情報を持ち寄り対応の検討を行っている。	羞恥心に伴うプライバシーには特に配慮しながら、利用者の尊厳を大切に取り組んでいる。個人情報に関する書類は一定の場所に保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	例えば意思表示が難しい入居者様であっても、普段の会話の中や様子などから、本人の思いや希望の把握と想像を行っており、職員間で話し合い希望に応じた支援が行えるよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の日課は作らず、可能な範囲で個々のペースに合わせ支援を行なえるよう努めているも、現在人員不足により、以前よりも個々のペースに合わせて生活して頂く事が疎かになってきている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の状態に合わせ、理容室に出掛けたり、衣類を買いに出掛けたりしている。また、ご家族様から情報を頂いたり、生活歴等参考にしながら支援に繋げている。また、髪の毛の乱れ・爪や髭が伸びていないか等細目に支援している。			

グループホーム 温もりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(楓ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士により献立表を作成する上で、食材の下拵えを一緒に行ったり、施設で栽培している野菜を加え、季節を感じられる様な食事内容にしている。また、片付けに関しても少しでも役割として入居者様が行える様に努めている。	栄養士の職員が栄養のバランスを考え季節感を取り入れて献立を作成している。、流しそうめん、ジンギスカン、焼き芋、漬物作り、町内のお寿司屋さんが出張しての握り寿司を堪能するなど、美味しく楽しい食事に配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に応じて器を変更したり、嗜好品を聞いたり、食事の時間を調整し提供している。また管理表を作成し、職員全体で把握出来るよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自身で行う方であっても必ず終了後に確認をさせて頂いている。義歯の方もガーゼ等を使用させて頂く事もあり個々の状態に応じた支援を行なっている。また近年口腔ケアが推奨されており、当施設も口腔ケアに力を入れている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄状況に応じ、夜間はオムツを使用しても日中は布パンツにしたり、排泄のサインをキャッチし誘導を行う等、できるだけトイレで排泄ができるよう努めている。	排泄は個人差があるが記録を参考に誘導や声かけでトイレでの排泄を促している。回廊式の廊下を歩き腸の活性化に努める事で布パンツの使用が可能になるなど効果が表れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの取れた献立や個々に応じた形態等で工夫している。また、好みに応じて野菜ジュースやヨーグルトを摂って頂いている。その他、毎日運動の機会を作り体操を行なっている。しかし、内服頼りになってしまっている状態も散見される。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には週三回(月・水・金)を入浴の日として決めており、曜日時間問わず好きな時に入浴する事は出来ていない。しかし、一人で入りたい方や仲間と入りたい方等、なるべくご本人様のタイミングで入っていただける様な支援を行っている。	週2回から3回の入浴は利用者の生活リズムに合わせて、お湯の温度などにも配慮している。大型の浴槽なので仲良し同志が会話を楽しみながら気持ちよくゆっくりと入浴できるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や身体状況に応じた支援を行なっている。日中は活動休息バランスを整え、メリハリのある生活の支援に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況、薬情は専用のファイルに綴り、各スタッフが確認出来るようになっている。処方の変更があった場合は連絡ノートに記入する事により確認出来る様になっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物に出掛けられる機会をお作りしたり、日常生活において必要な仕事である洗濯物畳みや食器洗い・食器拭き等、自分の仕事場と思ってお手伝いをしてくださる方、個々に役割や楽しみのある生活が送られるように支援している。またご家族様との外出・外泊・旅行等、施設での行事・外食等で気分転換に繋げている。		

グループホーム 温もりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(楓ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段の会話の中で希望等を把握し、外出支援に繋がっている。難しい所は、行事を利用したり、ご家族様に協力して頂く等で支援に繋がられるよう努めている。また、外出した際は写真を撮り廊下や本人様の居室前に貼り出しており、そこからコミュニケーションに繋がられるような試みを行っている。	四季折々の自然を身近に感じての散歩や花と野菜を育てたり、新幹線の新北斗駅や大沼公園などの遠出のドライブの時は外食をするなど、外出する機会を多く作っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力や希望に応じて、金銭所持して頂けるように努めているも、現在金銭所持できる入居者は1名のみとなっている。買い物等に出掛けた際は支払いまで楽しんで頂けるよう支援している。(金銭管理は協力医療機関の事務で管理となっている)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の能力に応じながら、これまでの繋がりを大切にし、ご家族様や親戚との電話でのやり取りが行えるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールでのソファの配置の工夫を行い、より居心地の良い共用空間を目指し、ゆったり寛げる様に取り組んでいる。廊下や玄関には外出レクやホーム内で行われたレクの写真を貼り出し思い出について話せるような工夫を行っている。	玄関を中央に左右に各ユニットがある平屋造りの建物の内部は床暖房が施され、季節感を表わす装飾と行事の時の利用者の写真が飾られている。回廊式の廊下は身体機能低下防止に利用できるので利用者はユニット間の区別がなく自由に往来している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置いてゆっくり一人になったり、仲の良い方が会話等できるよう工夫している。一人で腰掛けられる様に椅子も置いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご家族の写真や仏壇、身の回りの使い慣れた物、以前の施設での思い出の品等、馴染み易い空間になるような工夫を行っている。	全居室は陽当たりがよく明るく、家族の写真や思い出の品が飾られ、ベッド、クローゼット、冷蔵庫、テレビが備え付けられている。利用者は在宅当時の家具や日用品を持ち込み心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に自立した生活が送られるように、入居者様の能力を日頃のケアを通して把握し、必要な支援の見極めを行っている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191500214		
法人名	医療法人 森生会		
事業所名	グループホーム 温もりの家 銀杏ユニット		
所在地	北海道茅部郡森町字上台330-12		
自己評価作成日	平成29年11月15日	評価結果市町村受理日	平成29年12月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2017.022_kani=true&JigyosyoCd=0191500214-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年12月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1、当事業所は運営母体が医療機関(森の里病院)で隣接しているため、日頃から入居者様の健康状態について相談できる環境にあります。また、緊急時には医療機関と連携が図れる体制が整っている。その他、毎月往診及び薬の定期処方があり入居者様の健康管理を行なっている。H29年10月より訪問看護ステーションウィズもりと契約し、毎週金曜日の定期訪問・夜間17:30～9:30までの間緊急対応、土・日・祝の対応と医療との連携・協力が更に強くなった。</p> <p>2、当事業所には常勤の栄養士を配置しており、食事の献立や栄養のバランスを考えた食事を提供しています。</p> <p>3、当施設周辺には緑が多く、春には桜を観に出掛けたり、秋には栗拾いに出かけたり、紅葉を観に出掛けたりと四季の変化を楽しんで頂けると幸いです。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(銀杏ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し都度確認し共有している。ケア会議等を利用し話し合いを行ったり、また理念を基本に個人目標を立て、日々のケアにおいて実践出来る様に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会への地域行事の参加やボランティアの受け入れ、法人内での祭りなど(お花見や夏祭り等)に参加し地域との交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の会合などに出向き、認知症についての理解をお話しさせて頂いたり、ご家族様には面会時での会話内や入居対応時、電話等にてアドバイスをを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、活動状況や入居者様の現状等について報告し、それについて推進委員から意見やアドバイスをもらい、サービス向上に活かせるよう努めているが、ご家族様の参加率が低い事が現状。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いたり、包括ケア会議に出席し、情報交換や、実情についての取り組み等を伝えている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議等で日々のケアの中で肉体的な拘束は勿論、精神面で拘束してしまっていないか等について話し合い、より良いケア方法を検討している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修会に参加し報告会等で職員全体で理解を深められるよう取り組んでいる。各々が自覚の無い虐待になってしまわない様に努めている。		

グループホーム 温もりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(銀杏ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し理解は深めているものの、支援に繋がられる様な関係者との話し合いや検討までには至っておらず、機会が無い状態である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に口頭・書面で重要事項説明を行ない、理解、納得していただいた上で契約を行っている。また、契約の際にご家族様となるべくコミュニケーションを取り、信頼関係の構築を心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。来所時に意見や要望を聴かせて頂いたり、アンケートの実施や運営会議の議事録、「温もりの家便り」を送付し意見や要望を反映出来るよう努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全体会議内で職員の意見や提案する機会を作り反映できるよう努めている。また年に一度個別面談を実施しており、職員からも意見を言いやすいような環境を心掛けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を取り入れた業務改善や、研修の機会を確保し各々が積極的に参加できるよう、また上司と掛け合い給与水準について相談をしたり、モチベーションを維持できるような体制を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社側の働き掛けで研修費用・宿泊代の助成等積極的に、外部の研修会に参加できる環境を作る事が出来ている。研修会後は報告会や勉強会を実施し知識や技術の向上に繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各事業所との研修会・交流会などに参加し情報交換や実状について意見交換を行なう等、サービスの質向上に取り組んでいる。		

グループホーム 温もりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(銀杏ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には面談を行ない、ご本人・ご家族様の思いや不安等を把握し、ご本人が安心して生活を送れるよう支援している。入居後においても思いや考えを理解しながら支援にあたる様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	生活に対する希望や健康上の不安、これまでのご家族様同士の関係性等を雑談の中でお聞きしており、ご本人様ご家族様も含めて、良好な関係作りにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関係機関やご本人・ご家族様から情報収集を行ない、その上で必要なサービスや支援を見極め、日々のケアに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一日の内2回、1時間程ではあるが、入居者様とのお茶会のようなものを行い、談笑を楽しむ時間を作っている。また、食器洗い・食器拭き・洗濯物畳み等・・・家事作業を通じ、暮らしの中で必要不可欠な仕事のお手伝いをお願いしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通常は面会時や電話で近況報告等行なっているが、ご家族様の中には、忙しい方や遠方の方もいる為、温もりの家便り・手紙・電話で普段の様子をお伝えしている。また、行事参加案内の送付や日用品等の必要になった物のお願い等、ご本人様とご家族様の関係作りを大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物に出掛けたり、誕生日・行事を利用して本人の「行きたい場所」へ食事に出掛けたり、またその他には町内のお祭りへ参加したり、馴染みの理容院・歯医者など関係が途切れてしまわないよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事・おやつ作り・レクリエーション等を通して交流の機会を提供している。また入居者様の状態に応じ席替えを実施したり、スタッフが介入しコミュニケーションのお手伝いをする等、他入居者様間において関わりを継続できるよう努めている。		

グループホーム 温もりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(銀杏ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了してからも関係性を大切にし、ご家族様に来所して頂いたり、必要に応じて訪問し相談に応じています。また町内の病院や買い物時にご家族様と顔を合わせる事もあり、挨拶を欠かさず行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や思いについて把握出来るよう、コミュニケーションを大切にしている。思いを表出するのが難しい方には、普段の様子等から本人様の立場になって想像する事を行ない、意向の把握については御家族様へ昔の本人様の話し等を聞いて把握する様努めている。また職員間でも気付いた事を話し合い検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	備え付けにて家具は一通りご用意させて頂いているものの、ご本人様の馴染みの物を自室に置いたり仏壇や亡くなった旦那様の写真を置き、馴染みのある生活環境を目指している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ユニット会議等を利用し居室担当者が主で話し合いの場を作っている。その時に左記の事も討議しており、職員各々が入居者様の把握、状態維持改善に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に行っている会議や担当者会議内で話合われている。3ヶ月毎にモニタリング、6ヶ月毎にアセスメントを実施し、用紙を作り職員へ記入して貰っている。その中での良いアイデアと、本人の状態を考慮し反映させながらケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「FUTURE」と言う電子カルテを用いて個別にその日行ったケアや、様子の変化等を記録し送り・情報共有を行っている。必要に応じてプランの見直しやケア方法の工夫について、ケア会議で検討を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに合わせてボランティアを活用したり、外出先へのロケハンや連絡を取ったりと柔軟かつ臨機応変に対応できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や買い物、外食と一緒にいたり、消防署との連携にて避難訓練を実施したり、安全に屋外を散歩できるよう警察にも協力を依頼している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接している協力病院について説明した上で、かかりつけ医になって頂いている他、本人が以前からかかりつけ医として利用していた病院をそのまま利用したり、ご家族様からの希望にて病院を変える等の支援を行っている。		

グループホーム 温もりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(銀杏ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員同士の情報共有を密に、状態変化を早期に発見し、看護師に相談出来るよう努めている。また今年の10月より訪問看護ステーションウイズもりと契約を交わし、夜間・土・日・祝の急変時の対応も可能となり、より密に医療連携が可能となった。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は関係機関と情報提供書を相互に提出する事や、退院前に面談を行う為の連絡調整しており、協力体制の確保に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期に向けた事業所の方針を説明し、ご家族様から意見や考えを聞いている。重度化については状態の変化に合わせご家族様の意向を確認しながら進めている。当施設ではまだ看取り体制は整備されておらず、現状では協力医療機関や町内の病院へ転院する等の対応を講じている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修の機会・発生した場合のマニュアル・協力病院等との連絡網はあるが、実際の場面で全員が活かせるかは未だ不安がある。今後も定期的な学習の機会・訓練・演習が必要と考えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署立会いの元、避難訓練を実施している。その際は町内会の方々へ参加呼び掛けているが、中々都合が付かず参加は出来ていない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ各々が左記の事を自問自答しながら日々のケアに当たっており、日々試行錯誤を行いながら工夫している。ケア会議等においても情報を持ち寄り対応の検討を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	例えば意思表示が難しい入居者様であっても、普段の会話の中や様子などから、本人の思いや希望の把握と想像を行っており、職員間で話し合い希望に応じた支援が行えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の日課は作らず、可能な範囲で個々のペースに合わせ支援を行なえるよう努めているも、現在人員不足により、以前よりも個々のペースに合わせて生活して頂く事が疎かになってきている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の状態に合わせ、理容室に出掛けたり、衣類を買いに出掛けたりしている。また、ご家族様から情報を頂いたり、生活歴等参考にしながら支援に繋げている。また、髪の毛の乱れ・爪や髭が伸びていないか等細目に支援している。		

グループホーム 温もりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(銀杏ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士により献立表を作成する上で、食材の下拵えを一緒に行ったり、施設で栽培している野菜を加え、季節を感じられる様な食事内容にしている。また、片付けに関しても少しでも役割として入居者様が行える様に努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に応じて器を変更したり、嗜好品を聞いたり、食事の時間を調整し提供している。また管理表を作成し、職員全体で把握出来るよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自身で行う方であっても必ず終了後に確認をさせて頂いている。義歯の方もガーゼ等を使用させて頂く事もあり個々の状態に応じた支援を行なっている。また近年口腔ケアが推奨されており、当施設も口腔ケアに力を入れている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄状況に応じ、夜間はオムツを使用しても日中は布パンツにしたり、排泄のサインをキャッチし誘導を行う等、できるだけトイレで排泄ができるよう努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの取れた献立や個々に応じた形態等で工夫している。また、好みに応じて野菜ジュースやヨーグルトを摂って頂いている。その他、毎日運動の機会を作り体操を行なっている。しかし、内服頼りになってしまっている状態も散見される。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には週三回(月・水・金)を入浴の日として決めており、曜日時間問わず好きな時に入浴する事は出来ていない。しかし、一人で入りたい方や仲間と入りたい方等、なるべくご本人様のタイミングで入っていただける様な支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や身体状況に応じた支援を行なっている。日中は活動休息バランスを整え、メリハリのある生活の支援に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況、薬情は専用のファイルに綴り、各スタッフが確認出来るようになっている。処方の変更があった場合は連絡ノートに記入する事により確認出来る様になっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物に出掛けられる機会をお作りしたり、日常生活において必要な仕事である洗濯物畳みや食器洗い・食器拭き等、自分の仕事場と思ってお手伝いをしてくださる方、個々に役割や楽しみのある生活が送られるように支援している。またご家族様との外出・外泊・旅行等、施設での行事・外食等で気分転換に繋げている。		

グループホーム 温もりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(銀杏ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段の会話の中で希望等を把握し、外出支援に繋がっている。難しい所は、行事を利用したり、ご家族様に協力して頂く等で支援に繋がられるよう努めている。また、外出した際は写真を撮り廊下や本人様の居室前に貼り出しており、そこからコミュニケーションに繋がられるような試みを行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力や希望に応じて、金銭所持して頂けるように努めているも、現在金銭所持できる入居者は1名のみとなっている。買い物等に出掛けた際は支払いまで楽しんで頂けるよう支援している。(金銭管理は協力医療機関の事務で管理となっている)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の能力に応じながら、これまでの繋がりを大切にし、ご家族様や親戚との電話でのやり取りが行えるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールでのソファの配置の工夫を行い、より居心地の良い共用空間を目指し、ゆったり寛げる様に取り組んでいる。廊下や玄関には外出レクやホーム内で行われたレクの写真を貼り出し思い出について話せるような工夫を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置いてゆっくり一人になったり、仲の良い方が会話等できるよう工夫している。一人で腰掛けられる様に椅子も置いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご家族の写真や仏壇、身の回りの使い慣れた物、以前の施設での思い出の品等、馴染みやすい空間になるような工夫を行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に自立した生活が送られるように、入居者様の能力を日頃のケアを通して把握し、必要な支援の見極めを行っている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム温もりの家

作成日：平成 29年 12月 21日

市町村受理日：平成 29年 12月 22日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	前年度の課題として・・・家族や地域の方の出席が少なく、今後は積極的に関わって頂ける様な働きかけに期待する。議事録は会議毎に纏め、その回の内容を分かりやすく伝える工夫を期待する。というところでは、やはりご家族様の出席率が低い。理由としては遠方の方や、仕事上出席できないケースが考えられる。ご家族様以外では町の職員、包括、社協、町会など出席率は増えた。	①現在の出席率を維持しつつ、ご家族様への呼び掛けを継続する。 ②活動報告が主体な会議構成だが、出席者から忌憚のないご意見・ご要望などあげて頂き、有意義な会議になるよう努める。	①②時間帯も含めご家族様の出席は非常に困難だが、今後も近況報告を含めた連絡、行事参加などでのやりとり、呼び掛けにてご家族様との関係性の構築、出席したいような会議構成などを視野に入れ対策を練る。また出席者が些細な他愛もない話題でも発言できるような環境作りなど考慮する。	1年
2	12	処遇面、モチベーションの低下、人間関係・・・など理由により法人全体で退職者が続いている。グループホームは特に馴染みの関係性を重要視しており、馴染みの職員の退職は入居者様にとって大きな混乱を招く原因となり、また認知症の悪化が予想される。	処遇改善、研修機会の増加、モチベーションの向上、人間関係の構築、上司・職員同士互いに話しやすい、相談しやすい環境作りを徹底する。	当施設では話しやすい環境、人間関係は良好で、研修機会も職員の要望を汲み取り参加させている。問題は処遇面で組合を通し今後も積極的な働き掛けを実施する事で、少しでも職員の処遇改善に繋げたい。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。